

WE しもやま
LOVE

今年も“世界の決戦”がしもやまにやってくる！

いよいよ11月21日（木）～24日（日）に、「FIA世界ラリー選手権（WRC）フォーラムエイト・ラリージャパン2024」が開催されます。

昨年に引き続き、下山地区で開催されるラリー競技の機運醸成のため、10月1日（火）～12月1日（日）の期間をラリー応援期間「しもやまラリーよってらっ祭（しやい）、みてらっ祭（しやい）」と位置づけ、しもやまラリー実行委員会の皆さんが中心となり、ラリーを盛り上げる取組を実施します！

期間中には、街灯へのタペストリー掲示などのビレツジドレッシング、謎解きイベントの実施や、三河湖SS限定グッズの販売など、ラリーを身近に感じ、わくわくするような企画をたくさん実施しますので、ぜひ一緒に盛り上げていきましょう！今後、一緒に活動してくださるボランティアの方も募集予定です。

イベントの詳細等ははこちらから⇒



今年も世界の決戦がしもやまにやってくる！

SHIMOYAMA RALLY 2024

しもやまラリー

謎解きイベント実施!!

三河湖SS限定グッズ販売

クラフトビール LINEスタンプ タオルなど

MIKAWAKO

2024 10/1 tue ▶ 12/1 sun

しもやまラリー応援期間

各連携施設 イベント情報は こちら

このまでの イベントの集まりは こちら



三河湖花火2024を開催します

今年も三河湖花火を開催します。改築工事をしていた「三河湖観光センター」が完成し、同日行うオープニング式典後に三河湖花火の打ち上げを開始します。夜空と湖面を彩る花火と新三河湖観光センターをご覧ください。

■日 時 令和6年11月2日（土）17時30分打ち上げ予定

■観覧場所 羽布ダム堰堤、三河湖観光センター駐車場

■その他 指定臨時駐車場からシャトルバスで会場へ移動

■問合せ 豊田市しもやま観光協会 電話・FAX90-2530



▲詳細はこちら



▲昨年の様子



まちの突撃！？隣のしもやまファンVol.6「齋藤 和雄さん」

このコーナーは、地域記者まちの連載コラムです。下山に移住・定住された方たちを紹介するとともに、移住・定住者が感じている下山の魅力を発信して、住民の皆さまに下山地区の魅力を再発見してもらうことを目指しています。第6回は、下山田代町に移住された齋藤和雄さん取材をしました。

【齋藤和雄さんのプロフィール】

和雄さんは、岡崎市出身で現在45歳。家族は4人で、奥様の直子さん、長女7歳、長男1歳です。

高校生までは岡崎市で育ち、大学から名古屋市へ。南山大学卒業後、銀行に就職するが自分には適していないと感じ、自分に合う仕事は何か探していました。

もともと染物の服が好きだったことから、29歳の時に染物の創作活動を開始。翌年には、岡崎市にあるショッピングセンター内に絞り染めのお店を創業しました。

2018年9月に下山田代町に引っ越して来て、現在は、『アトリエセドナ』という名前で作品制作と染物体験を自宅で行っています。



【趣味について】

「仕事が趣味です！」と答えられ、好きなことを仕事にしていると強く感じました。

染物を下山の特産品にしたいという熱い思い！そんな和雄さんの素敵な作品の一部を右の写真で紹介します。

【しもやまに移住したきっかけ】

下山は、自然豊かで染物の材料の宝庫です。

たまたま現在の下山田代町の家が空いていて、内覧に来た時に、「ここだ！」と直感で感じました。



▲和雄さんの作品（一点ものの絞り染め）

【和雄さんからしもやまの好きなところをひとこと！】

とても自然が豊かで、染物作家というライフスタイルにとってもフィットした場所です。下山の穏やかな空気感でアイデアが自然に出てきて、アーティストにとっては最高の場所です。下山にあるもので作品を制作して、下山に恩返しをしたいです！



SNSで藍染めの紹介 ▶ @WAKARAN_ATELIERSEDONA

取材・記事：川合真裕(まちや)：平成4年生まれ。小・中・高校と卓球に明け暮れる毎日。羽布建設の家業を継ぐため現在奮闘中。下山を盛り上げたいという思いを持った同級生5人組「Village Fan's Co.」代表。4月から、里楽暮住(りらくす)しもやま会の委員に就任しました！





わくわく事業団体紹介 想家PROJECT

事業名：地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！ **代表：**木下 貴晴

事業概要：空き家改修により多世代の人達が集うことのできる憩いの居場所づくり。農山村体験のワークショップのための拠点として活用を進め、関係人口を増やし定住に繋がります。

今年は椎茸の菌うち体験や流しそうめん、田植え体験等を行い毎回30名ほどの方とワークショップを行いました。ワークショップをきっかけに、実際に下山に移住された方もいました。参加者同士や地元ボランティアとの交流の中で、しもやまの人・風土の良さを肌で感じてもらえたからではないかと思います。



▲4月…シイタケの菌打ち
収穫は何年後かな！？



▲5月…畑づくり
獣害柵は竹で手作り



▲6月…田植え
腰が30分で限界です



▲7月…流しそうめん
沢山食べられる不思議



▲8月…草取り
田を背に一息

団体からのヒトコト：令和6年度後半のワークショップ内容が決定しました。関心のある方のご参加を心からお待ちしています。応募は右の二次元バーコードから！

9月 稲刈り、10月 新米試食会、11月 茅葺屋根探索、12月 漬物作り、3月 計画中



▲下期ワークショップ
応募フォーム



@OMOYA_SHIMOYAMA

▲団体公式SNS



▲無垢材の上でヨガ

レンタルスペース始めました

想家で「何かやってみたい！」という方を募集中。
想家は、地域のコミュニティスペースとして活用されることも目指しています。

7月には、和合町在住のヨガ講師大島亜美さんを迎え、ヨガ教室の会場としての活用を試行しました。

ヨガの後は、自家製無農薬野菜などの持寄り会を実施して、リラックスできる地域の憩いの場となりました。

利用希望者や話を聞いてみたいという方は、団体公式SNSからお問合せください！



わくわく事業2次募集の団体が活動開始します！

わくわく事業補助金は、地域資源を活用して「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組む団体の活動を支援する補助金制度です。1次募集で交付決定した11団体に加えて、2次募集では2団体に交付を決定しました。下山地区のまちづくりに取り組む団体を、皆で応援していきましょう。

新規	団体名	補助申請事業名	交付決定額(円)
○	大沼雅楽会	雅楽deコミュニティ活性化事業	320,000
	元気の郷づくりの会	地域住民で協力し、憩いの広場を守る整備事業	320,000

【お知らせ】令和7年度1次募集は12月頃に募集開始予定です。皆さまの応募をお待ちしています。



下山の防災を考える 一斉防災訓練と防災講演会を開催

9月1日の防災の日に合わせて、8月25日（日）に下山地区一斉防災訓練、9月11日（水）に防災講演会を開催しました。

8月25日は、下山地区自主防災会の主催で防災訓練を行いました。南海トラフ地震の発生可能性が高まっている等の理由から、7自治区の避難場所には合わせて700人を超える参加者が集まり、防災意識の高さがうかがわれました。避難場所では、簡易トイレ設置訓練、水消火器訓練、炊き出し、車中泊訓練など各自治区で工夫をこらした訓練が行われ、真剣に取り組んでいました。

9月11日の防災講演会は、豊田市社会福祉協議会下山支所と下山地区自主防災会の共催で開催され、新潟県村上市小岩内地区の方の被災経験を聞きました。令和4年に発生した土石流災害の際には、同地区の55年前の水害で学んだ経験を活かし、一人の命も失うことはなかったという実例を聞きました。また、「土石流が発生する前は、独特な泥のにおいがする。山河に囲まれた地形で避難が難しい場合は、崖から離れた場所での垂直避難が有効」と教えてもらいました。自主防災会の伊藤会長は、「下山も住民同士の結束が強く、防災意識も高い。困ったときはお互い様という“共助”の気持ちで下山を守っていきましょう」と語りました。



▲ 消火栓訓練の様子



▲ オンラインでの防災講演会



連載コラム「せつつが行く！ Vol.17」

下山最古の伝統行事 阿蔵地域 念仏踊り



日本には多くの無形民俗文化財があります。私の故郷である、岡山県の備中地区にも“備中神楽”があり、お盆や秋祭りの祭事での披露など今でも保存会が中心となって、伝統芸能を守っています。

下山にも4つの無形民俗文化財があり、その中の1つ、阿蔵の念仏踊りが8月15日（木）に行われました。江戸時代末期から始まったとされるこの踊りは、下山に疫病が流行した際、村内の神仏に疫病退散を祈願したところ、病が治まったことに村人が感謝し、念仏を唱え、踊り、神仏を供養したことが起源とされています。初めて見ましたが、踊りの最中に漂う厳かな空気感に、その地域に根付く伝統芸能の奥深さを感じました。元々は阿蔵組に居住する15歳から45歳までの若連中が担っていましたが、近年は人口減少による担い手不足から阿蔵自治区全体で念仏踊りを守っています。この日も250人が集まり、昔ながらの村のお祭りを楽しみました。歴史も古く、貴重な伝統芸能を地域全体で伝承し、熱心に続けられている姿を見て、何らかの形で広めていきたいと思いました。



▲ 念仏踊りの様子



WRC2024の開催が近づいてきましたね！表紙に掲載されているように今月からラリー応援期間が始まります。第5回は、ラリー競技を応援するうえで欠かせない「リエゾン」について、ミンミンさんにお聞きしました。

本名：洪銘蔚（ホン・ミンウィ）
下山地区在住のラードライバー
豊田市わがまちアスリート

Q：リエゾンとはなんですか？

A：リエゾンは、競技コースであるSSとSSの間を移動する区間のことです。閉鎖した一般道を走行してタイムアタックをするSSに対し、リエゾンは一般車に交じって交通ルールを守りながら走行します。また、ラリー競技は全ての区間を含めたタイムが設定されています。SSがスタートする時間までのリエゾンにも基準タイムが設けられていて、遅れるとペナルティでタイムが加算されてしまいます。



▲防寒対策ばっちりの
ミンミンさん（左）

Q：リエゾン区間ではどのように過ごしていますか？



A：前のSSがうまくいかなかったときは無言になってしまうこともありますが、良かったときは嬉しくて歌っちゃいます。また、沿道から手を振って応援してくれる皆さんにいつも元気をもらっています。

Q：初めてリエゾンでラリー観戦する人におススメのポイントはありますか？

A：楽しんで観戦することが一番大切です。海外ではBBQをしながら見ている人もいますよ。椅子や雨具、防寒グッズは必要です。好きな

▲WRC2023リエゾンの様子（支所前） お菓子とかを持ってきてピクニック気分で観戦してくださいね。

【今回の学び】リエゾン区間では、コドラと次のSSに向けた作戦会議や集中力維持のために糖分補給をしているそうです。リエゾンで応援していたらモグモグタイムのミンミンさんが見られるかも！？ 皆さんも今年のWRCは、選手と車にもっとも近づくリエゾン区間に行ってラリーを応援してみましょう！

下山地区データ



人口
3,959 人
(-80)



男性
1,969 人
(-35)



女性
1,990 人
(-45)

（9月1日現在）
※（）は前年同月比



世帯数
1,645 世帯
(5)

発行情報

編集・発行

豊田市役所下山支所（〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1）
毎月15日発行

お問い合わせ

TEL 0565-90-2111 FAX 0565-90-3344
MAIL shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を掲載しませんか！





【 社協下山支所だより 】

まどいの丘



住所：豊田市神郷町中切7番地2

TEL:0565-90-4005 / FAX:0565-90-2419 / MAIL:shimoyama@toyota-shakyo.jp



防災・みまもりささえあい講演会を開催



今年1月に発生した能登半島沖地震をはじめ全国各地で災害が発生しているなか、下山地区においても今後起こりうる災害に備えて、地域の防災力の向上・住民同士のささえあいがより一層求められてきていることから今年度は、実際に被災されその中で「奇跡の避難」として全国から注目されている新潟県村上市小岩内集落の住民のみなさんにオンラインでご講話いただく事となり85名の参加がありました。災害に対する日頃の準備や心構えを常に意識しておくことは必要ですが、その中でも『地域のみなさんが協力できる組織作り』が重要な事だと改めて実感しました。小岩内集落は普段から地域のコミュニティがしっかりしており、リーダーである松本区長への信頼も篤く区長さんの冷静適切な決断と役員さんたちや消防団員たちの使命感と行動力が多くの人命を救った日頃のコミュニティの親密力、同じ時代、同じ地域に住む運命共同体意識。互いに近くで助け合う「互近助」があつてこそ生まれた「小岩内の奇跡」多くの事を学べました。

自助：自分を守る
共助：近所の人を守る
助け合う
災害時の活動につながる
ように

下山自主防災会 伊藤会長

新潟県村上市小岩内集落のみなさん



地域のつながりと防災意識

日頃のコミュニティが災害時の助け合いにつながる。
55年前の経験がとっさの判断につながった。

消防団：地域の頼みの綱
再避難：決断力とみんなを
動かす力

大きな災害がなく
語りべがない安全な地域

心にとめて教訓として
頑張りたい

豊田市自主防災会連絡協議会
酒井氏



まどいの丘で一緒に働きませんか



介護の
やりがい
を実感したい！

子育て中
の方も！

Wワークでも
OK！

勤務日数・時間
も柔軟に対応！

未経験者の
方でも！

まずはお問い合わせください。 まどいの丘デイサービスセンター 担当：溝口 新村

電話：(0565)90-4005



講座報告



トリオタカハシと楽しむ アフタヌーンコンサート

9月8日(日) 参加 93人

演奏者は地域のホームドクターである高橋亮太郎氏をはじめとする「トリオタカハシ」のみなさん。チェロ、ヴァイオリン、ピアノの美しい音色に参加者はうっとり!! 日常を離れた和やかな雰囲気になり、癒された様子でした。また、休憩中には昨年同様、TYT 体操を行い、身も心もリフレッシュしました。



講座案内

ハンドメイド講座①

カルトナージュ de クリスマス



- 【日 時】12月8日(日) 10時～12時
【場 所】下山交流館 多目的ルーム
【対 象】どなたでも 小学生のみの参加可能
【定 員】20人(先着)
【申込み】11月9日(土) 9時30分～
窓口または電話
【内 容】クリスマスオーナメント作り
【参加費】1,100円(材料費込)
【講 師】アトリエエリカ 宮崎エリカ氏



※9月号でお知らせした日時が変更になっています。ご了承下さい。

令和6年度 しもやまスマイルフェスタ



日時: 10月27日(日) 9時30分～15時

会場: 下山交流館・憩の家周辺 ※詳しくはチラシをご確認ください!



《交流館利用の変更のお知らせ》

利 用 日 時	受付業務	図書返却 予約貸出	図書閲覧 貸出	部屋利用	子育てサロン
10/26(土)終日	○	○	×	×	×
10/27(日)9～18時	○	○	×	×	×

※10/27(日)18時以降は通常開館します。

おすすめ絵本展示

図書室絵本コーナーで、0～2歳向けと3～5歳向けの『おすすめの絵本』を50冊ほど紹介しています。

ぜひ、お気に入りの1冊を見つけてくださいね!



11月ロビー展示

11月2日(土)～11月30日(土)

『ラリーミニカー展示』

しもやまラリー実行委員会



米俵



「米俵」は稲わらで編んだ「こも」を巻いて作った米の入れ物。
昔の人は収穫した米の入れ物を稲の茎稲わらで作ったんだよ。無駄がないね。この俵一俵で60kgの米(玄米)を二粒もこぼさず運んだり安全にしまっておけたんだよ。昔に使われていた俵はいつまで使われていたんだろ？
ばあちゃんに聞くと「供出米」を

絵と文 なかむらこ

米俵で出たと言われたよ。「供出米」というのは、昭和の戦争から戦後の昭和25年まで米の供出制度というのがあって、農家は米を国に安く供出せよと言われ、農家の食べる分が足りなくなる事もあったが、戦争中の決まりだもんで60kgの米俵を何俵も出したげな。ほりぬ60kgだ、力持ちなら俵の縄つかんでひきと肩へ担げるが、若かったが力のないばあちゃんには縁側に俵を立てて縄をかけ背中によろいよと背負って何俵も取りに来る道まで出したげな。力がないと言っても60kgを運んだらどろい。

米俵を作るのは米の収穫までに去年のわらを使って夜なべで作っておいたよ。こも編み機で二つかみワッagonのわらでこもを編み筒にして端を折り込み、重ねたわらで丸く作った棧俵を、当て縄で対角にひいて底にし、こもの筒の中に米(玄米)を4斗(60kg)入水上の端も同じようにして、胴に縄をかけ米がもみれないように運びやすいように作ったよ。詳しい作り方はネットで見られるけど下山では二枚包みでなく一枚のついで実用的に丈夫でもみれない俵を作ったよ。
昔は米はもちろに入れる俵も手作りしたんだよ。

